

令和元年度静岡県緑化推進有識者会議 意見概要

1 平成 30 年度進捗評価

(緑化コーディネーター)

- ・ 芝生アドバイザーや緑化コーディネーターの実施について、おもてなし事業や園庭・校庭の芝生化をした場所以外にどういった場所で使えるのか。実施箇所数を増やしていくにはどのような場合に利用できるのか、可能性を団体等にアピールする必要がある。
- ・ 緑化コーディネーター養成講座を受けた全員がコーディネーターとして登録されるのか。そうだとすれば、コーディネーターはどんどん増えていくことになる。浜松だったらこの人、三島だったらこの人など、エリアごとに担当者を決める。県が派遣するのは 65 箇所かもしれないが、地元でその人たちが活動できる機会を増やさなければならない。育成された人たちが活躍できるフィールドづくりが必要。人を育てることは大事だが、育てた後のこと、次のステップに向かわなければならない。
- ・ 県内で〇〇リーダーや〇〇コーディネーターは多くいるが、講座が終わっても活躍できず、登録された後に活用されない。ちゃんと活動してもらうには実情を把握する必要がある。
- ・ 各地で緑化コーディネーターの育成を 15 年やっているが、卒業した人を見ると、コーディネーターとして質に差がある。卒業した人たちにも、現役の人たちと一緒に自主的に講義を受けてもらっている。
- ・ 園芸にも流行があり、コーディネーターの育成にあたっては、5 年ごとに教科書も含め全てを変えている。同じことを話さないことで、興味を持って若い人も入ってきてくれる。
- ・ 緑化コーディネーター養成講座の内容は誰が考えているのか。
→緑化コーディネーター養成講座は委託先と相談しながら決めている。(公財) 静岡県グリーンバンク)

(平成 30 年度おもてなし空間整備：全体)

- ・ おもてなし空間整備箇所における専門家によるアドバイスとはどのようなものだったか。
→伊豆市、伊豆の国市の箇所は、ガーデン・ランドスケープデザイナーからアドバイスを受けている。三島市、富士市の箇所は、ハンギングバスケットの専門家から花材の使い方などのアドバイスを受けている。

(平成 30 年度おもてなし空間整備：三島市箇所)

- 三島市のハートのトピアリーは周囲との調和に関する専門家のアドバイスは無かったようだが、地元の景観や植栽、植生などを大切にし、それに調和するものを作ってもらいたかった。今の流行に合わせたものではなく、地域のことを大事にし、将来も大切にされるような緑の場づくりの方が良い。単なる花選びだけでなく、地域にふさわしいものの作り方も専門家に意見をもらうべき。愛染院跡は、大きな溶岩があって、その上に大きな木が生えていて、歴史的な背景もある。

(平成 30 年度おもてなし空間整備：伊豆市箇所)

- オリンピック・パラリンピックで必ず人が来る。修善寺駅を見た人が「また行きたい」と思えるようにしなければならない。
- 自転車を持って電車に乗る人が来る。お迎えするだけの電車や駅のスペースが足りていない。大勢の人たちが来たときに、電車、駅がどう使われるのかが分かっていない。花飾りだけではなくて、急いでやらなければならない準備が何か考えて、県や地域が力を合わせて取り組まなければならない。
- 行政の仕組みにも関係あるが、都市計画の担当課などと連携を取れないといけない。

(平成 30 年度おもてなし空間整備：伊豆の国市箇所)

- 反射炉入り口のおもてなし花壇は花壇が良いだけに、場所に合わない看板が複数あって残念だった。緑化を行うところは看板もきれいにするなど、緑化と看板をセットにしてほしい。
→花壇の設計後に、事業を進めていく中で、事業に協力していただいている団体から、地域の一体感を出すために地元高校の美術部の絵を設置したいという話が出て設置することになった。(伊豆の国市)
- 看板を設置するなら看板のデザインも含めた緑化が必要。高校生が描いたものを活かしてデザイナーに看板を作ってもらい、配置してもらえばよかった。
- 高校生に花壇を見てもらって、どういうものが合うのか考えてもらえばよかった。

(花育)

- 指導者を養成して、子供たちに教えるという取組はいいと思う。ただし、買ってきた花を寄せ植えするのではなく、種から花を育ててもらいたい。子供たちの精神的な成長が全然違う。6ヶ月くらいかけて、種から花を育てると、芽生えの時も、花が咲いた時も、種が取れた時も子供たちが感動してくれる。

→今は未就学児童を対象としているので、卒園式に、自分が植えた花と写真をとろうという目標でやっている。グリーンバンクではその上の世代を対象とした花育教室を検討しており、そこでは種まきだけでなく土から作ることもしていきたいと考えている。花育を学校まで広げていくとしたら、教育委員会に相談するのが良いか。((公財)静岡県グリーンバンク)

- 教育委員会と相談しながらやっていく必要はある。ただ、自分は全国各地でやっているが、教育委員会に相談すると大体断られる。学校を回って、校長先生や担任の先生と話し、取り入れてもらう。
- 花育などのプログラムは、どういう目的で行うのかというゴールがしっかりしていることが大事。学校ごとに教育目標があり、それに合致したときに取り入れてもらえる。そういうことに積極的に取り組んでいるクラスや学校が絶対にある。導入の前に花育を通してどういう子供になってほしいのか話し合う必要がある。県内では、花育のような精神的な教育を行っているところは少ないかもしれない。

(評価シートの記載方法)

- 個票の書き方について、数字だけではなく、どういうコンセプトでどういう風にやったのかも書いた方がいい。
- 事業費が書いていないが、経済的に成り立っているのか気になる。書けるところは書いてほしい。

(公園の管理、企業との連携)

- 都市公園をプロデュースするような人も今は何も知らないような人たちがやっている。トータルなことを理解できる人たちを用意する必要がある。お金が取れるような公園の運営が求められる。企業の売りたいものを一緒にうまく売っていく。
- 京都市では、京都市に工場がある企業の工場敷地内で葵を育ててもらい、あおい祭りで使っている。企業も地域に貢献していると言うことができる。静岡も企業が具体的に地域に貢献しているといえるような事業をした方がいい。行政だけが苦勞するのではなく、5年、10年一緒にやっていけるようなパートナーを作る。

(リバーフレンドシップ制度)

- リバーフレンドシップ制度について、やったことの最後の評価はこういう風にでてくるのか。結構重要な事業なので、評価指標を作ったほうが良いと思う。

2 緑化の新しい取組・手法

- ・陰で育つ芝生があれば、壁面緑化、メガソーラーの下など、隙間の緑化に使える。
- ・八王子では、学生がガーデンの出展をした中で、「お持ち帰りバスケット」というのがあった。スーパーのかごのように持ち運べるサイズのもので、緑を動かすことができ、町の中の緑を広げることができる。レンタサイクルや市町の車にもつけられるのでは。
- ・人口減少と新技術、気温上昇を合わせて考えると良い。2040年は気温が上昇し、木陰の重要性が増す。木の根の周りを芝生で覆えば地温が上がらず、木の健康が維持でき、管理がしやすくなる。
- ・温暖化などで緑を管理するための今までマニュアルは、今後使えなくなってくる。今後公園の管理などのルールを見直す必要が出てくる。
- ・千葉県市原市では、ゴルフ場が、渡り鳥の中継点になっているなど、価値を見出し、保全している。ゴルフ場や工場の緑地などが生物多様性の保全に役立っており、企業や任意団体が作ったものの価値を再評価し、公共緑地と連続したネットワークを作っていく必要がある。